



秋田大学の英語教育の強化について

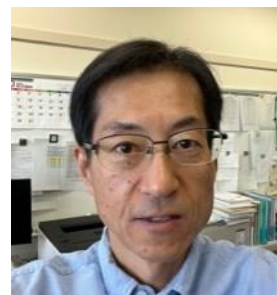
教育企画会議長 宇野 力

秋田大学における教育改革への取り組みの一つとして、ICT 活用力の向上を目標に掲げていることを 2023 年 1 月 27 日発行のみなおと No.51 においてお伝えしました。もう一つの取り組みとして今回は、本学での英語教育の強化について述べたいと思います。

教育再生実行会議 第十二次提言(令和 3 年 6 月 3 日)「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」においては、教育内容と教育環境の国際化を徹底的に進め、世界で活躍できるグローバルリーダーの育成や、地域の「知の拠点」としてグローバルな視点を持って地域社会の活性化を担う人材の育成が求められています。このような背景から本学では、多様性を尊重できる国際性豊かな人材を育成するために、学生の海外留学を推進するとともに、その礎となる学生の英語力を強化することを進めていきます。

具体策として、本学では令和 6 年度より、原則として教養基礎教育科目ならびに専門教育科目す

べての授業科目を日本語・英語の併用、または英語のみにより実施するという方向で検討しています。また、すでに本学ホームページに掲載されているように令和 6 年度以降の学部入学者全員を対象に、TOEIC スコアを活用して進級要件化することにより、英語力の強化を図ります。英語の不得手な学生でも努力により要件を達成できるよう、英語自主学習(e-learning)教材を活用した授業科目「英語 Certificate」を開設して本プログラム担当専任教員によりきめ細やかな指導が行われます。英語基礎力が向上した意欲ある学生には、学内留学スペース「The ALL Rooms」および特別強化コース「イングリッシュ・マラソン」というさらなる英語力向上を目指すプログラムも用意しています。



教育実践コースの紹介

教育実践コース 3 年次 相馬 慈

学校教育課程教育実践コースは、主として小学校教員を志望する学生が多く在籍していますが、これに加えて、専攻したい教科を選択し、中学校・高等学校の教員免許状を取得することができます。入学後に、国語、社会、家庭、音楽、美術、保健体育、英語、数学、理科から専攻を選択して、履修を組みます。2 年次以降は、専門の講義も増え、より教科の専門性を深めることができます。

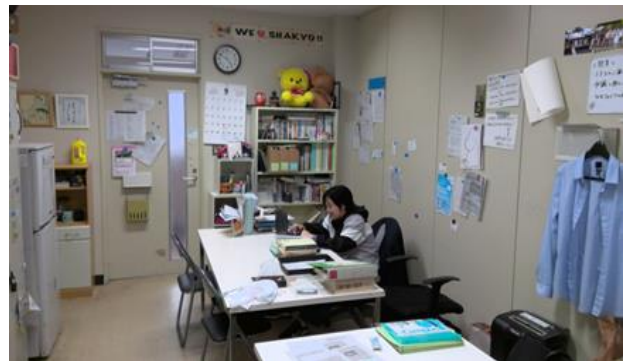
今回は、私が所属している社会科教育教育研究室を紹介したいと思います。社会科教育研究室は、2 年生 9 名、3 年生 11 名、4 年生 9 名の計 29 名で活動しています。社会科に関する専門の講義はもちろん、ICT を活用した教材作成や論文購読、学習指導案の作成と模擬授業の実践など、日々学びを深めています。

研究室の活動には、毎週行われる研究室全員参加のゼミや社会科巡見（2 年次）、社会科授業づくり演習（3 年次）、秋田大学祭での出店などがあります。社会科巡見と社会科授業づくり演習については、「みなおと No.52」に寄稿させていた文章で詳しく説明していますので、興味のある方は、そちらも併せてご覧いただければと思います。

この文章を読んでいる皆さんも聞いたことがあるかもしれませんが、社会科教育研究室の一番の特徴は、卒業研究（卒論）を 2 年次から始めることです。2 年次になり、研究室に所属すると、4 年次の学生が開催する説明会やガイダンスなどを通して、自分の興味のあることや研究したいテーマを決定し、「問題の所在と研究の目的」から順に書き始めます。大変だと感じるかもしれませんが、3 年間を通して、自分の研究と向き合い、絶えずブラッシュアップすることで、より研究テーマの本質に近づくことができます。みなさんも、社会科教育研究室で、研究と格闘しませんか。

これまで紹介してきたように、教育実践コースは、教職に就くことを目標とする学生が、教科を吟味して選択し、専門的な知識を学び、実践的な理解へとつなげることのできる場です。今回紹介した社会科教育研究室のほかにも、特色ある研究室がたくさんあり、教師としての資質・能力を高め、専門性を向上させることができます。興味の

ある方は、ぜひ教育実践コースの各研究室を訪問してみてください。



研究室の様子



研究室にある卒論の一部

英語教育コースの紹介

英語教育コース 3 年次 長谷部ひなた

英語教育コースでは、主に小学校、中学校、高等学校の英語の教員免許取得を目指す学生が学んでいます。1 学年の人数は 10 名程度ですが、学年を超えた繋がりもあり、授業や実習のことなど、助け合いながら目標に向かって進んでいくことができます。

英語教育コースには現在 5 名の先生が所属しています。英語教育に関する授業はもちろん、文法や発音、英語文学など、5 名の先生方から幅広く英語を学んでいます。授業を通して疑問に思ったことや興味をもったことも丁寧に教えて頂けるので、学ぶ意欲が高まります。また、今年度は別大学の教授に異文化理解や第二言語習得に関する授業を教わる機会もあり、英語教育の視野を広げるきっかけとなりました。

普段の授業では、模擬授業を行うこともあります。グループや個人、対象学年など形は様々です。実践を行うことで、計画の段階では予測できなかった学習者の反応を得られたり、臨機応変な支援の工夫を学ぶことができます。また、授業の進行に必要な英語表現にも気付くこともできます。大学での模擬授業を経験することで、教育実習での学びも深まります。

英語教育コースの授業は基本的に全て英語で行われます。また、4 年間を通して達成したい英語

試験の具体的なスコアも提示されており、日々英語力の向上に努めています。

このように英語教育コースは、普段の授業等を通して、同じ目標をもつ学生と高め合いながら学ぶことができる場です。英語教育はもちろん、英語そのものに興味がある方、自分の英語力を向上させたい方、ぜひ英語教育コースへお越しください。



理数教育コースの紹介

理数教育コース 3 年次 伊藤彩花

理数教育コースでは、1 学年約 20 名で、数学や理科を中心としながら、小学校・中学校、高等学校の教員を目指して学んでいくことができるコースとなっています。1 年次から数学専攻と理科専攻に分かれて、それぞれで専門的な知識や技能を学んでいきます。数学や理科における教員としての技術を高められるように、模擬授業を行うだけでなく協議を行ったり、指導案を作成したりなどの実践的な学習を通して、一歩ずつ確実に力を付けていける環境となっています。

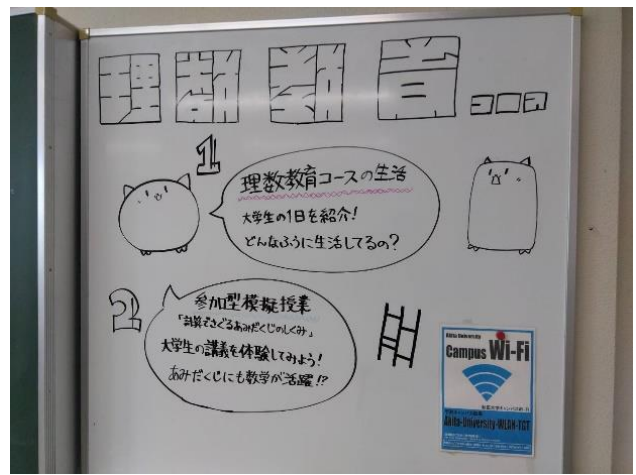
ここからは、私が所属している数学専攻について詳しく紹介していきたいと思います。数学専攻では、上記に挙げたような教員として授業を行う上で必要な技術に関するだけでなく、解析学・代数学・統計学・幾何学などの専門的な数学の知識を身につけていきます。専門的な数学の知識を身につけることで、問題の背景や目的に意識を向けることができるようになったり、今まで学習してきたことのつながりを理解することにつながったりすることができます。専門的になるため、高校までの数学よりも段違いで難しくなり、たくさん新しいことも増えるため、大変さを感じたり悩んだりすることもあります。周りの友達や仲間と協力して考えたり、教授の方々の力を借りたりすることで、楽しく学ぶことができます。

1 年次では数学教育の本質的な考えなどを学び、2 年次にはより実践に近い内容や専門的な知識を学び、夏に行われる教育実習に向けて力を付けていきます。3 年次の後期には研究室に配属され、興味のある内容について研究していきます。数学教育についてや専門的な数学についての研究室に分かれて、それぞれに研究していきます。

新型コロナウイルスの流行により制限されていたものが、徐々に緩和されてきているため、対面の授業が多くなったり、今まで開催されていなかった行事が復活してきたりなど本来の大学生活に戻りつつあります。授業も大事ですが、バイトやサークル活動、イベントなども大学生活で大事だと思っているので、楽しい毎日を過ごすことができます。

理数教育コースは、切磋琢磨していく心強い仲間がいるだけでなく、学生を大切に思ってくれている教授の方々がいます。そのような環境の中で、

充実した学習をしていくことができるところがコースの魅力の一つだと思います。



特別支援教育コースの紹介

特別支援教育コース 3 年次 佐藤里香・丸岡初香

特別支援教育コースでは、様々な障害に関する知識を得ながら、一人一人のニーズに合わせた教育について学びます。座学の講義はもちろん、学校や施設での実習、ボランティア活動にも力を入れており、障害のある方々と実際に関わりながら特別支援教育について理解を深めています。特別支援教育コースは他の学科・コースよりも自由にカリキュラムを選択することができます。特別支援教育学校教諭、小学校教諭、中学校教諭の免許のほか、幼稚園教諭、高等学校教諭の免許、保育士、社会教育士、学校図書館司書教諭の資格を取得することができるため、自分が目指す理想の教師像の実現に大きく近づくことができます。

今回は、3年間で感じたこのコースの魅力を2つに絞って紹介します。

1 つ目は、特別支援教育について様々な角度から学ぶことです。特別支援教育の実践だけを学ぶのではなく、歴史や心理、福祉などあらゆる方面から見た特別支援教育について学びます。難しい内容もありますが、これらの知識が結びついたときには、一気に自分の価値観の広がりを感じ、勉強がとても楽しくなります。

2 つ目は、コース内の交流が盛んなことです。特別支援教育コースには、1 年生から 4 年生までの学生が一緒になって参加する行事がたくさんあります。春には歓送会があり、特別支援教育コースの先生方もお招きして先輩方の卒業をお祝いします。また、4 月には新入生歓迎会が開かれ、新入生と在學生、先生方とそろって顔合わせをします。特別支援教育コース内で交流を深める貴重な機会となっており、それぞれの出し物などを通して仲を深めています。さらに、各学年で劇やダンスを披露する演芸祭や、秋田大学の文化祭での「特研団子」の販売など、学年を問わずにコース内で交流することができる行事が様々あります。

今回紹介した活動以外にも特別支援教育コースならではの活動、魅力は数多くあります。こうした活動を通して、自分を成長を実感できるこのコースの魅力が伝わっていると嬉しいです。



歓送会の集合写真



新入生歓迎会の様子

こども発達コースの紹介

こども発達コース3年次 青山菜月

こども発達コースでは、入学後に①幼稚園・保育園主免（主に幼稚園教諭や保育士を目指す）、②小学校主免（主に小学校教諭を目指す）の2つのコースからどちらかを選択し、幼保小連携の観点から、子どものこれまでとこれからの発達を見通した教育や保育を中心に学びを深めていきます。コースとしては主に幼稚園教諭・保育士・小学校教員の養成を行っていますが、その他に中学校、高等学校、特別支援学校、社会教育主事、社会教育士、学校図書館司書教諭などの資格も幅広く取得することができます。そのため、将来に対する見通しがまだ曖昧でも、自分の興味や関心に合わせて学び、多くの選択肢を見出すことのできるコースです。

こども発達コースでは4年間を通して、実習やボランティアなどを通して子どもと実際に関わる機会が多くあります。特に実習は、幼稚園・保育園・小学校の他に、特別支援学校・乳児院・社会福祉施設などにも訪問させていただく機会があります。そのため、大学で学んだ知識を活かしながら多くの子どもたちと関わり、より実践的な考え方や技術を身につけることができます。昨年は、付属幼稚園の子どもたちを対象に、楽しんでもらえるような遊びのコーナーを自分たちで考えて作成し、実際に遊んでもらう「こどもふれあいデー」も開催しました。

また、実践的な授業が多くあることもこのコースの魅力だと考えています。幼保の授業では、子どものおもちゃを作成したり、理想の園庭を考えたり、赤ちゃん人形を使って沐浴・オムツ替え・ミルクづくりの練習をしたりしています。小学校の領域では、1年生のうちから模擬授業を行ったり、小学生を対象にした授業内の活動を実際に体験したりと、座学だけではわからないことを多く身につけられます。

生活面でも、学生間での交流が盛んで、温かく優しい雰囲気のコースです。同じ学年だけでなく縦の繋がりも持ち、履修・生活面・様々な面でサポートしあいながら学生生活を送ることができます。

今回ご紹介したこと以外にもこども発達コースの魅力は多くありますが、少しでも伝わっていたら嬉しいです。楽しく子どもについて学びたい方

はぜひこども発達コースにお越しください。皆さんと一緒に学習できることを楽しみにしています。



模擬授業の様子



制作物（理想の園庭）

地域社会コースの紹介

地域社会コース 3 年次 沼倉大真

地域社会コースは、地域に存在する人々や企業、行政、自然環境などに着目し、社会が持っている特徴や課題について学ぶことができるコースです。

まず講義について、このコースでは、地域社会というとても大きな研究対象を3つの学習分野に分けており、3種類の視点から地域社会について学べるようになっています。

1つ目は、ガバナンスです。この分野は法律や経済、政治に関する講義で構成されており、国・地域の統治の仕組みについて学ぶことができます。

2つ目は、ビジネス&マネジメントです。この分野は経営やマーケティングといった企業経営に関わる講義が多くあるほか、地域資源活用や観光など、ビジネスの視点から地域の特徴を学ぶ講義もあります。ちなみに、私はこの分野の授業を多く受講しています。

3つ目は、コミュニティです。この分野は社会や環境を対象にした講義で構成されています。そのため、行政や企業目線で考える上の2分野に比べて、一般市民の視点に近く、実生活にとても近い学問だと感じます。地域社会コースに所属すると、上記の3分野のどれかを主軸としたうえで、講義を選んでいきます。



友人が地域連携ゼミで訪れた田沢湖

次にフィールドワークについてです。地域文化学科の学生は3年次に、地域連携ゼミか特定地域研究ゼミのどちらかに配属されますが、このコースで用意されているゼミは地域の組織と協力して活動するものがたくさんあります。実際に企業や行政機関と連携し、イベントなどの運営に携わる

というのはとても貴重な経験であり、座学だけでは知ることができない楽しさや喜びを感じることができます。

最後に、地域への貢献についてです。このコースでは地域のあらゆる存在が学問の対象になっており、自分の好きな角度から地域を観察することができます。そうすれば、今まで誰も見つけることのできなかった地域の魅力や弱点を発見し、社会の発展に寄与することができるかもしれません。私はそのような発見はできていませんが、たまに論文を読むとどれも着眼点が様々であり、地域活性化への無数の可能性を感じます。

また、研究の対象となる「地域」もたくさんあります。秋田県や地元の街、あこがれの場所など、自分の興味のままにターゲットを決めて研究することができるのも、このコースならではの魅力です。ぜひ一度、身の回りの地域のことを思い起こして、楽しいことや興味のあることを漠然と考えてみてください。このコースに所属すれば、そのテーマに沿った学習ができると思います！



友人が地域連携ゼミで訪れた男鹿ロックフェスティバル

心理実践コースの紹介

心理実践コース 3 年次 野呂田萌子

心理実践コースでは、心理学の幅広い領域について、専門的な知識の習得に加え、実験や実習、演習などを通して日々学んでいます。公認心理師や臨床心理士といった資格取得を目指している人も多く、大学院へ進学する人も毎年見られます。

心理実践コースに配属されるのは2年生になってからですが、1年生のうちから心理学の基礎的な科目の授業や実習に参加する機会があります。そして、2年生になると心理学の授業が本格的に始まります。例えば、心理学実験の授業では、実際に臨床場面で使われている検査をクライアントの立場になって体験したり、実験の結果を統計的な手法を用いて分析したりします。3年生以上になると、より専門的な授業が増え、カウンセリングの技法を学んだり、事例検討を行ったりする機会があるほか、様々な場所へ実習に行き、学びを深めています。

また、心理実践コースでは、学年を越えた縦のつながりを深める機会もたくさんあります。例えば、県内の小学校へ赴いて心理検査を実施する心理実習（教育）では、1～3年生が一緒に参加するため、とても規模が大きい実習です。学年を越えて協力し合うことで、実習後はコース全体の絆も深まります。また、4年生や大学院生の卒業研究の実験に参加する機会も多いです。先輩の実験に参加することは、自分自身にも良い学びの機会になるほか、先輩と仲良くなるきっかけにもなっています。

ここまで、心理実践コースの紹介をしてきましたが、みなさんは心理学についてどのようなイメージを持っているのでしょうか？学校に来ていたスクールカウンセラーの先生を思い浮かべたり、「〇〇診断」といった心理テストを思い浮かべたりする人もいると思います。私自身も、大学入学前まではそのような印象が強かったです。ですが、実際の心理学の領域はとても幅広く、発達心理学、認知心理学、産業心理学、司法・犯罪心理学など、実に多様です。大学での学びは、これらの様々な領域について広く学ぶことで、多様な視点から人間の「こころ」を捉えることができ、将来、心理の専門家として地域の人々と関わっていくことに役立てると思います。



授業風景



学生自習室の様子

国際文化コースの紹介

国際文化コース 3 年 藤田葉々子

国際文化コースは、主に歴史文化、表象文化、コミュニケーション文化の 3 つの領域に分けられています。歴史文化では、西洋史や東洋史、日本史、秋田の地域文化の研究を行います。表象文化では、ドイツ・フランス・ロシア・中国・アメリカ・日本の文学や映画などの作品や、美術史の研究を行います。コミュニケーション文化では、アジアやヨーロッパでのコミュニケーションに関するメディアの研究や言語学、哲学を学びます。

研究分野を列挙して分かるように、様々な国や地域を様々な考え方で見て知って、理解を深めていくことができるのが、この国際文化コースの最大の特徴です。また、地域文化学科の他の 2 コースに所属している学生も、卒業研究等で国際文化コースの分野を視野に入れている人は毎年います。つまり、学科・学部を通して、広く開かれた、打ち解けやすいかつ自由なコースだと私は思います。

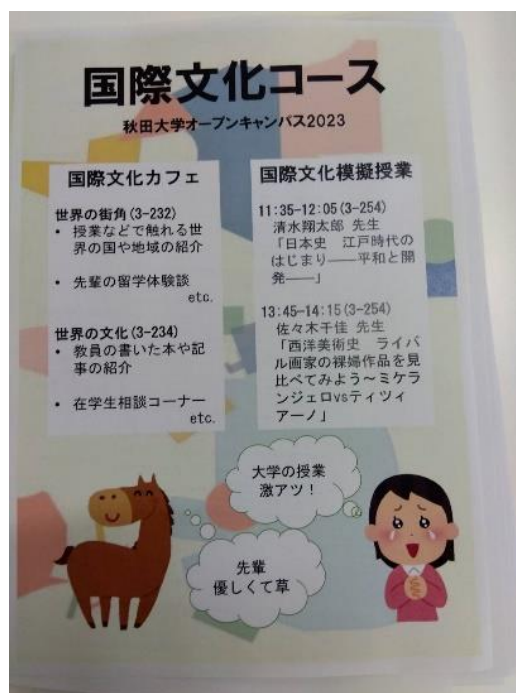
私の主観にはなりますが、国際文化コースの学生は、このコースを愛してやまないという特徴があります。私が関わった学生のことしか分かりませんが、自分が何となく好きなことをできるから、楽しそう、もっと知りたいという知的好奇心によって、このコースを選んだように感じます。自分の考えを大切にしてくだわりもあれば、他者の考えも聞こうとする優しい人たちが多いと思います。多様さを誇るコースだからこそ、そのような特徴を持つ学生が集まるのか、多様さを感じることでできる学生がコースをつくっているのか、本当に面白いコースだと思います。

併せて、国際文化コースの先生方も本当に優しい人たちです。高校生までは、先生は先生でしたが、大学に入って初めて先生は人間だと感じました。オープンキャンパスでは誰よりも前のめりに準備して企画して、学生と一緒に楽しい空間をつくっていただきました。あのとき、国際文化コースに所属して良かったなと実感しました。

一つ願望があるとしたら、もっと多くの学生が国際文化コースを選んで、多様さとその面白さを体験してほしいです。私はこれから、もっとその奥地に入り込もうと思います。



オープンキャンパスの様子



師範学校時代の校歌—学部の歴史をたどる②⑤

現在、学部の歌はありませんが、1924(大正13)年9月18日に、秋田県師範学校の創立五十周年記念で校歌が制定されています。「→」は手形から保戸野に移転後に改作された部分です。

- 1 天(あま) そそり立つ鳥海の
雪は朝日に輝きて
沃野(よくや) 四十里(しじゅうり)
分け下る
長江雄物(ちょうこうおももの)の行く
ところ
天地秀でて幸多し
我らはここに生を享く(うく)
- 2 名も明徳の学舎(まなびや)の
偉業を承けて立ちしより
理想の幟(しるし) いや高く
薫化(くんか)の績(いさを: 功績・
手柄のこと) いや深し
光栄のあと五十年→→→→光栄のあと
離々(りり: よく実っていること)
として
我らが過去は光あり

- 3 今暗澹(あんたん)の雲翔(かけ)り
→→→時うつろへどうつろわぬ

汚濁(おだく)の浪(なみ) 荒ぶとも
→→→理想のかげに啓示(さとし) あり
手形臺(台) 上日は高く

→→→→→→→保戸野原頭(げん
とう: 野原のほとりのこと) 日は高く
→緑こめ
旭水(旭川のこと)の水とはに澄む
青春の血高鳴りて
我らが行く手は望(のぞみ) あり

漢文調の格調高い校歌となっています。

1910(明治43)年3月20日制作の秋田県女子師範学校校歌は以下のようなものでした。

- 1 みなおとたかき雄物の流れ
ゆきかぜ清き鳥海のみね
矢留のまつのとかなる翠
あさゆふにわれ等(ら)がまなびのと
ふときすがた

校 歌

秋田県師範学校校歌
東京音楽学校教授と寺三郎氏訂
同 秋田岡野氏・作曲

一、天そそり立つ鳥海の
雪は朝日に輝きて
沃野四十里分け下る
長江雄物の行くところ
天地秀でて幸多し
我らはここに生を享く

二、名も明徳の学舎の
偉業を承けて立ちしより
理想の幟いや高く
薫化の績いや深し
光栄のあと五十年
我等が過去は光あり

三、今暗澹の雲翔り
泥濁の浪荒ぶとも
手形臺上日は高く
旭水の水とはに澄む
青春の血高鳴りて
我らが行く手は望あり

校 歌

- 2 あさひのひかり太平の色
足穂のいねの秋田の実り
窓にのきば（軒端）に遙けく近く
居ながらにわれ等がまなびのつきせぬながめ
- 3 みこと（御言）かしこみ教を守り
睦ひ交して（むつびかわして）学べるわれ等
わざを磨きつ心をきたえ
もろともに世をこそてらさめをみな（女）の鏡
- 4 城山松の秀でたるみさを（操）
高峯（たかね）のゆき（雪）のさやけき心
師となる道の歩みも枉（ま）げず
とこしへに御くに（国）にのこさめわれ等がいさを（績）

学びの尊さを、秋田の名所等に結びつけながら訴えかけるものになっています。秋田県民歌（1930年）にも通じるような気がします。

この校歌は、作詞を赤松定郷教諭、作曲を沢保次郎教諭が担当しています。沢教諭は成田為三が在学していたときの音楽の教師で、成田為三を指導していました。「浜辺の歌」「秋田県民歌」などの作曲で有名な成田為三は、1909年に秋田県師範学校に入学していますので、この曲を聴いていたかもしれません。なお、秋田県民歌の作詞者の倉田政嗣は成田の秋田師範学校時代の同級生でした

1909年に、秋田県師範学校から女子師範学校が分離されるとともに、師範学校が

秋田県女子師範学校々歌（明治43年3月20日制定）
作歌 教諭 赤松定郷
作曲 教諭 沢保次郎

4調 4/4 校 歌

5 | 1 - 1 1 | 1 2 3 4 5^V 1 | 2 2 2 3 4 | 3 - 0
ミ ナ オ ト ター カー キ チ モ ノ ノ ナ ガ レ

5 | 1 2 1 2 3 4 3 4 | 5 2^V 3 2 | 1 2 3 2 1 | 7 - 0
ユ キー カー セ・キー 田 キ タ ウ カ イー ノ ミ ネ

5 | 7 4 2 7 | 5 4 3 2 1 7 5 | 5 - 7 6 | 5 - 0 0 |
ヤ ド メ ノ マ ツ ノー ト ハ ナ ル ミ ドー リ

1 - 1. 5 | 6 4 0 1 1 | 4 3 2 2 1 | 7 - 0
ア サ ユ フ ニ ワ レ ラ ガ マ ナ ビ ノ

5 | 5 - 4 - | 3 1 4 2 5 4 | 3 - 2 - | 1 - 0 ||
タ フ - ト - キー ス ガ タ

みなおとたかき雄物の流
ゆきかぜ清き島海のみれ
矢留のまつとはなる翠
あさひふに
われ等がまなびのたふときすかた

あさひのひかり太平の色
足穂のいねの秋田の実り
窓にのきはに遙けく近く
居ながらに
われ等がまなびのつきせぬながめ

みことかしこみ教を守り
睦ひ交して學べるわれ等
わざを磨きつ心をきたえ
もろともに
世をこそてらさめをみなのかかみ

城山松の秀でたるみさを
高峯のゆきのさやけき心
師となる道の歩みも枉げず
とこしへに
御くにのこさめわれ等がいさを

中通から手形（現在のキャンパス）に移転し、中通（現在の県立美術館近辺）に女子師範学校が移りましたので、それを契機に作られた校歌だと思われます。

本学部にて在職していた為我井寿一元准教授に、校歌を再現してもらいましたので、ぜひ学部 HP でお聴き下さい。

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html

【文責：佐藤修司】

学部・研究科の活動（2023年8月～9月）

【全学】

9/19: 秋田市西部付近で午後3時までの1時間にレーダー解析で約110ミリの大雨を観測し、記録的短時間大雨情報が発表。内水氾濫により、道路冠水、土砂崩れ、床上浸水が発生。

【学部】

9/20: 編入学試験

【教育学研究科】

9/23: 第1回スクールリーダー研修会

9/30: 第1期大学院入試

【附属学校園】

9/29: 附小公開研究協議会

教師の成長

秋田市教育委員会教育次長 長谷山 庫之

秋田大学教育文化学部が創立 150 周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。また、明治 6 年の秋田県伝習学校の創設以来、秋田県師範学校への改称、国立秋田大学教育学部の開学を経て、長きにわたり、数多くの教員を輩出し、県内外の教育の充実に寄与されてこられましたことに深く敬意を表します。

さて、令和 5 年 6 月に閣議決定された次期教育振興基本計画では、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の 2 つのコンセプトと、「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」や「教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進」など、5 つの基本方針が掲げられました。

この計画の実現に向けては、現役の教師はもちろんのこと、今後採用されるであろう秋田大学の学生の方々にとっても、容易ならざる努力が必要であると思われます。5 つの基本方針にもある働き方改革を推進することは大前提としても、絶え間ない資質・能力のアップデートが求められそうです。

こうした中、今、秋田大学の学生の方々は、教員人生スタートから何年先のキャリアを射程に入れて日々学ばれているのでしょうか。今の若手教員は、大学でのきめ細かな指導等のおかげで、授業の指導技術や近年の教育課題に対する知識等は、しっかりと身につけているように感じます。そこであえて付言するなら、大学では、それと同時に、生涯学び続ける上で必要となる力も身に付けてほしいと考えています。

授業の指導技術などは大学でも学校現場でも多くを学ぶことができます。しかし、いずれどこかの時点で壁にぶつかる時がきます。教科指導や生徒指導で「よい指導とは何か」といった根源的な問いが生じる時がきます。「現場で学ぶ」だけでは、乗り越えられない、書店にある「すぐに役立つ～」式の書籍だけでは対処できないこともあります。もし、そのような壁を簡単に乗り越えることができる人がいるとすれば、よほど能力が高い教師か、成長することをやめてしまった教師ではないでしょうか。

大学には、やがて訪れる、壁を乗り越えようとする時に足場となる学び、学問の体系や論理などが確実にあるはずです（それは、一見するとすぐに役に立つようには思えないような姿をしているかもしれません）。すぐに役立つ技術と生涯学び続ける上でやがて必要となる力、両方をバランスよく学ぶことが大切だと思います。

教育界は、依然いわゆるポストモダン思想の影響を受け、あらゆる教育的な価値が相対化され、教育の理想や夢として語られてきた物語の正当性が揺らいでいるように見えます。「よい教育とは何か」の答えが見つからないような現代にあって、教育の未来を担うこれからの世代に、「よい教育とは何か」を常に問い続け、成長し続ける教師として歩んでほしいと願うとともに、そのための教員養成大学固有の役割に期待しているところです。

学生の皆様への激励と大学関係者の皆様の日頃のご指導・ご支援に感謝申し上げます、メッセージとさせていただきます。

発行 秋田大学教育文化学部／教育学研究科

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html

教職大学院通信「暁鐘の音(かねのね)」⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html

* 誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌(1910年制作)を聴くことができます。

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html をご覧ください。